

個別学習指導の実践から見えてくる 特性理解のポイント



岡山白ゆり発達支援センター

石原 忍



第1部 子どもを育てる3つのアプローチ

- スモールステップ
- 支援除去法
- 多感覚刺激

第2部 個別支援の事例から

- 友里ちゃん(小4～中2)の読解指導

第3部 おわりに

- 実践を通して見えてきたこと
- 個の育てと集団の育て
- 連携の中身(統一すべきこと 専門性を発揮すべきこと)

第1部 子どもを育てる3つのアプローチ ①

スモールステップ

6P→8P→20P→30P→46P→

- まずはできることから 続く道筋を (→**長縄の実践事例**)
- つまづきを予測し、事前に手立てを準備しておく

特性理解と課題分析 ⇒ エラーレス(完全習得)学習



この道を歩けば、必ずそこに到達させる教育的な見通し

(例) 数が数えられるようになる 〈**同数発見プリント**〉

- 数唱 → 順序数の意識化 → 一対一対応 → 数字認知
→ 視覚的把持 → 数字との対応 → 操作活動
(量的なとらえ)



支援除去法

(プロンプトフェーディング)

- 手厚い支援を施し、課題を達成させていきながら、段階的にその支援を除去し、自力解決させる方法 → トライ&エラーへ
(試行錯誤へ)
- 支援の出し入れの加減 ⇔ 特性理解

(例) 文章を読み答える力を育てる 〈3レベル読解プリント〉

1レベル 答えをなぞる(理解言語と文字言語の接点)

2レベル 答えを選ぶ(継次的読解力) = 聴覚性の支援

3レベル 答えを記入する(同時的読解力) = 視覚性の支援

多感覚刺激

(二系統同時刺激)

- 育てたい力を明確にした上で、トータルな学習活動の中で、他の感覚や能力を使いながらそれを統合化させていくアプローチ

(例) ひらがなが読めるようになる 〈ひらがな-図柄対応プリント〉

言語→ 文字言語 内言語 理解言語 表出言語 聴覚性言語
(その子の優位な特性を利用して、他の言語性を高める)

視覚性優位傾向(同時処理)

〈逐次読み〉

りんごの絵を見せ内言語化
→ 文字を読ませる

聴覚性優位傾向(継次処理)

〈文字を振り返ることが苦手〉

言葉を聞いて内言語化
→ キーワードを見つける



第2部 個別指導の事例から ①

友里ちゃん(小4～中2)



4年生1学期から
週1回～2回
90分のマンツーマンレッスン

友里ちゃんの特性理解と課題について

- 達成動機が高い (△ 切り替え 柔軟な対応)
 - 同時処理優位の認知特性
- (○ 視覚認知 漢字＝視写)
(△ 読みかえ 全体の俯瞰 婉曲な言い回し)



第2部 個別指導の事例から ②

○ 育てたい力

- 文章を読み、その内容をイメージ化し、尋ねられた内容に答える力

○ 基本的な支援のスタンス

- 文字を自分の力で音声化させる（事前準備＝ふりがな）
- 音声化 → 聴覚性のイメージ → 文字言語
- 文脈を見失わせない範囲と応答的なやりとり
（ボールは、ずんだ？）
- キーワード(視覚性言語)から理解を広げる補助発問
（「夏実は幹に体を寄せ、どう言って笑いましたか。」）



実践を通して見えてきたこと

- (1) つまづきを予測して、事前に準備しておくこと

「はな」って漢字は？

- (2) 書字支援の実際

言語によるもの 空間認知によるもの 色支援によるもの
良質の視覚刺激によるもの 比較(例示)によるもの 「乗」

- (3) 視覚支援のための色の活用

「同数発見プリント」「底辺ってどこ？」



第3部 おわりに ②

(4) 2年後3年後の子どもの育ちを見つめる

- 微細視覚認知は、10歳から伸びる
- 継次処理の子の書字は、やがて改善される
- 構音は、就学後に明瞭になってくる
- ノンバーバルな子ほど、ダイレクトに通じ合う
- 戻ってくる意識のサイクルをキャッチする
- 環境調整＝行動改善（知育・いすデスク）

教師の指導性とは、進むべき道を明確に指し示せること



個の育てと 集団の育て

○ 集団での学びと 個に寄り添った支援

(学校・園での学びの中身)

- ・ 体系化されたカリキュラム(多感覚刺激)
- ・ みんなと一緒にだからがんばれること(要求＝愛情)
- ・ 地域の中の大切な一人という所属感

(個別支援での学びの中身)

- ・ 特性理解に基づいたエラーレス学習
- ・ 長期間にわたって支え続ける存在(肯定的な自己理解)
- ・ 受容と内発性を支援の軸に(内発的な学習意欲)

※ 受容と要求のベストバランスこそ、プロとしての力量

連携の中身 (統一すべきこと 専門性を生かすこと)

○ 家庭

- ・ 生涯にわたって子どもと共に生きる (責任と自己決定)
- ・ 決して切れることのない親子の絆 (だからこそ厳しく)
- ・ ありのままの感情とやすらぎの空間 (家庭の機能)

○ 学校・園

- ・ オフィシャルな社会との接点 (教育的な愛情)
- ・ 集団の一員としての所属感 (自己肯定感)
- ・ 体系化された良質のプログラム (多感覚刺激)

○ 支援者

- ・ 内発性と特性理解に基づいたオーダーメイドの学び
- ・ 多くの実践にかかわる支援者としての専門性
- ・ 心の拠り所となる存在 (カリスマティックアダルト)

